

対話型日本語教育は 何をめざすか

2025年
9月20日(土)
10:00-13:00
(パリ時間 UTC+1)

【セミナー概要】

近年、共生社会として外国人労働者及びその家族を受け入れるためには、従来の教室型ではなく対話型が有効だとして対話型実践が注目されている。

しかし、この対話型実践の活動内容は多岐にわたっており十分な検証が行われていない。言語教育における対話の概念は、歴史的には19世紀半ばのいわゆる直接法の開発に由来し、その流れは2001年公開出版の「ヨーロッパ言語共通参照枠 CEFR」にも確実に繋がっているが、そうした事実については、日本語教育界ではまったく知られていないのが現状である。

今回は、こうした対話型実践について、まず対話概念の検証から始め、歴史的観点から考察する。このことから、新しい対話の理念に基づいた具体的な日本語教育のあり方を考え、対話型実践の理念・実施・評価をまとめて普及することを目的とする。(講師より)

※本研究は、以下の助成を受けて行うものである。

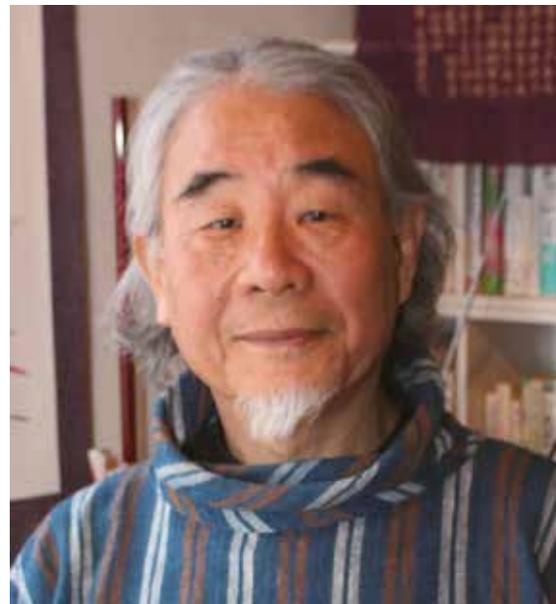
科学研究補助金・基盤 (C) JSPS・B1K802209801 (2025～2027)

「日本語教育における対話型実践の歴史的・社会的文脈—直接法開発から CEFR 受容へ」
(研究代表者：細川英雄)

申し込み (無料)

<https://forms.office.com/r/Utkt7eVi8a>

9月16日(火)まで



講師：細川英雄
(早稲田大学名誉教授)

早稲田大学名誉教授。早稲田大学大学院文学研究科博士課程満期退学。博士(教育学)。専門は、言語文化教育学。1983-84年、INALCO 日本語講師。1995-96年、パリ大学交換研究員。2013年4月より言語文化教育研究所八ヶ岳アカデミア主宰。

近著に『自分の〈ことば〉をつくる』(ディスカヴァー 21、2021年)、『対話することばの市民—CEFRの思想から言語教育の未来へ』(ココ出版、2022年)『活動型日本語クラスの実践』(スリーエーネットワーク、2022年監修)など。

ハイブリッドセミナー
言語：日本語
主催：パリ日本文化会館